

はが

から集まって情報の交換や共有をすることが大切だという声が多かったからだそうです。「普段からの地域の結びつきがいざというときの力になる。」「田んぼの話や野菜の作り方、話題はその時々違うが話の中でみんなの様子や、地域の情報がわかる。」とみなさん言われます。

隣保発!

ふれあい喫茶

～小地域福祉活動は隣保から～

はばたんの黄色いはたが
開店中の目印

谷自治会の5隣保では毎週末の早朝にふれあい喫茶をおこなっています。

自治会でふれあい喫茶をするところはありますが、隣保で行っているのはめずらしいです。

はじめたきっかけは、昨年8月の災害のあと、助け合っていくには、地域の住民が日ごろ

の

喫茶 阿淡波智(あたんぱち)
この辺の川にいる小魚の名前で

(波賀支部 上田めぐみ)

小地域福祉活動は身近な隣保からの活動をお願いしています。最近では毎日の生活の中で隣近所の人と接する機会が少ないのが現状です。身近なところからのつながりを大切に続けてほしいと思います。



この日は10人のお客様。全員が男性でした

ちくさ



エーガイヤで開催した説明会には22名が出席



奥西山福祉連絡会では、今後の取り組みについて協議

災害にもまけない「福祉力」を育むために

小地域福祉活動説明会を実施

小地域福祉活動の中心的な役割を担うのが「福祉委員」です。千種支部の福祉委員は143名です。

7月2日(金)、自治会長と代表福祉委員を対象に、小地域福祉活動の説明会を開催しました。また10日(土)には、依頼を受けた奥西山自治会福祉連絡会にて福祉委員の役割や小地域の取り組みについて説明会を行いました。

小地域福祉活動は、自分たち

の住んでいる地域にはどんな福祉課題があるか、みんなで考えみんなで支え合い・助け合いをしていく活動です。

日頃の声かけも、基本的な活動のひとつですが、ふれあい活動(喫茶・サロン)などを通じて閉じこもりがちな方の地域行事への参加を促すことも大切です。こうした取り組みが、地域の「福祉力」を育み、万一の災害時にも役立ちます。

(千種支部 小原志のぶ)